

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

平成30年～令和元年度（平成31年度） 分担研究報告書

分担研究課題：「医療的ケア児の育児上の課題を把握できる項目を

検討するための、文献レビュー」

分担研究者： 荒木 暁子（公益社団法人 日本看護協会）

研究協力者： 佐藤 奈保（千葉大学大学院）、伊藤 隆子（順天堂大学）

【研究要旨】

障害福祉サービス等の報酬における医療的ケア児の判定基準確立へ向け、調査研究に際して、医療的ケア児の育児上の課題を把握できる項目を検討するための、文献レビューを行った。

文献検討では、虐待とその周辺リスクに関する要因が、子ども、母親と家族の3側面で整理された。子どもの特徴には、身体的な状態、日常生活行動に関する問題、特有の行動や反応があった。母親の特徴は、母親の状況と行動に分類され、前者には健康問題、身体の不調や障害などがあり、後者には子どもへのアグレッシブな言動、受診の中断、支援を受け入れないなどがあった。家族の特徴は家族形態、家族の状態や関係性などがあった。これらの虐待リスクに関連する要因は複合的に生じており、プライマリーヘルスの場で医療福祉の専門職がこれらのリスクをアセスメントすることが求められる。

また、何らかの親の困難感を量的に測定することができないかという議論の中で、自身が開発した「育児ストレスショートフォーム」について、資料をもとに情報提供した。

A. 研究目的

医療的ケア児とその家族が障害福祉サービスを受けるにあたり、その必要性やリスクを客観的に把握することは、現状では困難である。障害福祉サービスの必要性は、子どもの重症度などの状態のみならず、家族の養育に関する準備状態や養育能力などにより異なる。

よって、障害福祉サービスを受ける必要性を把握するための要因を抽出し、その客観的指標を検討することが必要である。

特に、虐待やネグレクトのリスクは障害児の生命の危機に直結するため、様々な場で専門職がそのリスクを把握することが必要である。

目的：日本の障害児に対する虐待とその周辺リスクを評価・スクリーニングする客観的な指標を明確にするために文献レビューを行う。

B. 研究方法

1. 対象文献

日本における現状を把握するために医学中央

雑誌 Web 版を用い、過去 10 年間の文献

（2008～2018 年）を対象とした。先行研究を参考に、キーワードは、障害児とその関連用語、虐待とその関連用語（育児困難、養育困難、養育拒否、不適切な育児、マルトリートメント、虐待予備軍、ハイリスク家庭、気になる家族、虐待的環境、虐待的育児態度、虐待的育児行為、気になる親子、要保護、要支援、特定妊婦）、家族とした¹⁾。その結果、「障害児とその関連用語」×「虐待とその関連用語」×家族 93 件がヒットした。これらの文献のうち、障害児、親及び家族の状態・状況について明記されている原著論文、および、事例や解説においても状況が明記されているものは採択し計 24 件であった（表 1）。

2. 分析方法

主な分析項目は、論文タイトル、掲載誌名、発行年、著者名・所属、研究デザイン、結果を項目とした。結果については、虐待に関する先行研究を参考に、「子どもの状態」「母親の認識と行為」「家庭の状況」の3側面にかかわる記述内容を抽出した。シートを

作成し研究者それぞれで分析した。個々の研究者が独立して分析を進めたのち、別の研究者が内容を点検、照合することにより信頼性を確保した。

「子どもの状態」「親の認識と行為」「家庭の状況」については、データを抽出しコード化し、意味内容の共通性・相違性により複数データをまとめ、サブカテゴリーとした。

（倫理面への配慮）

文献レビューのため、特になし。

C. 研究結果

1. 論文の発行年数および掲載誌

論文・記事の発行年は、2009年1件、2010年2件、2011年4件、2012年2件、2013年2件、2014年2件、2015年2件、2016年6件、2017年1件、2018年2件であった。看護系学会誌4件、その他の学会誌14件、大学紀要やジャーナル3巻、その他雑誌3件と、看護系以外の学術誌のものが多かった。

2. 結果

結果から抽出された障害児の虐待に関連する子どもの状態、母親の認識と行為、および、家族の状況は以下の通りである。

1) 子どもの状態

子どもの状態は、[子どもの身体的な状態]、[日常生活行動に関する問題]、[特有の行動や反応]があげられた。このうち、[日常生活行動に関する問題]には、不規則な睡眠リズム、強い偏食などの、家族の日常生活に影響を及ぼす子どもの特徴や、言語発達や認知発達の遅れ、特定の人としか関わりが持てないといった、親子のコミュニケーションの難しさにつながる内容が含まれた。また、子どもに強いこだわりや過敏さ、自傷行為などの[特有な行動や反応]があることは、親が子どもとの関わりに困難を抱えるとともに、日常生活の中で子どもから離れることが難しい状況も生んでいた。

2) 母親の認識と行為

母親の特徴は、[母親の状況]と[母親の行動]に分類された。[母親の状況]には、健康問題や身体の不調、母親自身に発達障害や知的障害があることがあげられ、うつや不安障害といった mental health problems を合併して

いる場合には、ネグレクトの割合が高まっていた。また、子どもの世話や家族役割遂行に費やす時間が長く、日常生活において時間の利用が制限されること、コミュニケーションスキルに問題があり医療者などと会話が成立しない様子が挙げられた。

[母親の行動]では、子どもに対し攻撃的な行動や言動がある、子どもについて否定的な表現をする、訓練やトレーニングを必要以上にやらせるなどとともに、受診の中断や受診予定日に来ないといった医療ネグレクトにつながるものが含まれた。また、支援を求めない/拒むなどの、サポートを受け入れない様子もみられた。

3) 家族の状況

家族の状況は、[家族形態]、[家族員の状態]、[家族員の関係]に分類された。このうち、家族員の状態には、障害児以外に介護が必要な家族員がいること、障害児のほかに世話が必要な発達段階のこどもがいること、配偶者に健康問題があることなどが含まれた。家族員の関係については、母親から他の家族員に関する話が聞かれないこと、または他の家族員について話す内容が否定的であることが含まれた。

D. 考察

文献レビューにより、障害児サービスの必要性の判断には、医療的ケア児の特徴でもある子どもの行動上の問題、母親をはじめとした家族の状況などが必要であることが示された。

事例においても、SES（社会経済状態）、子どもの状態、家族の認識や行動、家族の状況（シングルペアレント、離婚など）が複合的に重なる要因となり、虐待や不適切な療育のリスクとなっていることが示された。特に、いくつかの文献では、親の精神障害、攻撃的な行動が障害児の不利な状況を引き起こす原因となっていること、子どもの生活リズムの不規則性が家族全体の日常生活の困難をもたらす不適切な育児行動を引き起こすことが示唆されていた。

E. 結論

障害福祉サービスは、計画相談により、上記に示されたような親の要因や家族の状況を踏まえて判定がされていると思われるが、申請による情報のみならず、必要なケースにサービスを届ける必要がある。そのためにも、

この結果が、明らかな指標と基準に基づく判断の一助となることを期待する。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

Akiko Araki, Naho Sato, Ryuko Ito, The Objective Factors of Maltreatment Against Children with Disabilities in Japan: The Literature Review (Poster), The 14th International Family Nursing Conference, Washington D.C. Aug. 13-16, 2019

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

平成30年度～令和元年(平成31年)度 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
障害福祉サービス等報酬における医療的ケア児の判定基準確立のための研究

表1. 対象文献一覧			
+A2:	タイトル	著者(所属)	出典
1	障がい児をもつ母親の養育態度への影響要因	関 睦美(福井医療短期大学 看護学科), 長谷川 美香, 出口 洋二	家族看護学研究(1341-8351)23巻2号 Page128-139(2018.02)
2	アスペルガー障害児の特異的行動に対する母親の認知的変化	伊藤 文子(恩賜財団済生会支部新潟県済生会三条病院)	新潟看護ケア研究学会誌(2188-9864)4巻 Page1-13(2018.03)
3	重症心身障害児を持つ親の離婚	小川 千香子(名古屋大学 大学院医学系研究科小児科学), 三浦 清邦, 伊藤 祐史, 城所 博之, 平川 晃弘, 根来 民子, 夏目 淳	日本小児科学会雑誌(0001-6543)121巻3号 Page563-570(2017.03)
4	在宅療養児を抱える母親の介護負担感に関連する要因と軽減を目指した支援	羽山 晶紀(九州大学病院 看護部), 木村 一絵, 松浜 留以, 山田 真理子	子どもと女性の虐待看護学研究(2188-4714)3巻1号 Page54-68(2016.06)
5	障害のある子どもをもつ親のメンタルヘルスの実態「保護者のためのこころのケア相談」における語りの分析から	一瀬 早百合(田園調布学園大学)	田園調布学園大学紀要(1882-8205)10号 Page199-210(2016.03)
6	香川県における子育て支援プログラム導入の試み「前向き子育てプログラム(トリプルP)」の有用性の検討	鈴木 裕美(香川大学 医学部公衆衛生学), 依田 健志, 西本 尚樹, 神田 かなえ, 平尾 智広	地域環境保健福祉研究(1343-9286)19巻1号 Page25-32(2016.12)
7	発達障害児における不適切な養育 母親の帰属と感情の影響	中谷 奈美子(金城学院大学)	心理臨床学研究(0289-1921)34巻3号 Page269-280(2016.08)
8	肢体不自由児施設に入所している被虐待児の追跡調査	下山田 洋三(愛徳医療福祉センター 小児科), 米山 明, 長瀬 美香, 坂井 恵	子どもの虐待とネグレクト(1345-1839)18巻1号 Page100-105(2016.05)
9	児童発達支援事業を利用する児の母親の育児負担感とその影響要因	関 睦美(福井医療短期大学 看護学科), 長谷川 美香, 出口 洋二	日本看護学会論文集:在宅看護(2188-6474)46号 Page47-50(2016.05)
10	広汎性発達障害児の保護者が示す子どもを叩く行動の変容 行動記録を用いたカウンセリングの効果の検討	岡村 章司(兵庫教育大学 大学院特別支援教育専攻), 渡部 匡隆	特殊教育学研究(0387-3374)52巻5号 Page369-379(2015.02)
11	【外来で遭遇する児童虐待】 障害児虐待の現状と予防と対応について 障害児の育ちと家族を支える療育機関の関わり	米山 明(心身障害児総合医療療育センター 小児科)	外来小児科(1345-8043)18巻1号 Page68-75(2015.03)
12	肢体不自由児施設の専門職が経験する被虐待児支援における困難の構造	大橋 麗子(岐阜大学 医学部看護学科)	子どもの虐待とネグレクト(1345-1839)16巻1号 Page68-
13	在宅重症心身障害児虐待に対する訪問看護介入の実態と課題	西 留美子(共立女子大学 看護学部地域在宅看護学), 田口 理恵[袴田]	共立女子大学看護学雑誌(2188-1405)1巻 Page9-16(2014.03)
14	知的障害児の母親のコミュニケーション能力が育児負担感と心理的マルトリートメントに与える影響	李 仙恵(両備介護研究所), 朴 志先, 中嶋 和夫, 黒木 保博	日本保健科学学会誌(1880-0211)16巻2号 Page57-65(2013.09)
15	知的障害児の母親の育児負担感が心理的マルトリートメントに与える影響	李 仙恵(両備介護研究所), 朴 志先, 中嶋 和夫, 黒木 保博	社会福祉学(0911-0232)53巻4号 Page96-108(2013.02)
16	看護師が肢体不自由児に対する虐待の有無を判断する際に関連する要因	小原 千明(秋田県立医療療育センター), 佐々木 久長	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要(1884-0167)20巻2号 Page109-122(2012.10)
17	子どもの貧困と「重なり合う不利」 子ども虐待問題と自立援助ホームの調査結果を通して	松本 伊智朗(北海道大学)	社会保障研究(0387-3064)48巻1号 Page74-84(2012.06)
18	知的障害児の母親を対象とする心理的マルトリートメント測定尺度の開発	李 仙恵(両備介護研究所), 朴 志先, 中嶋 和夫, 黒木 保博	日本保健科学学会誌(1880-0211)14巻3号 Page144-154(2011.12)
19	障害のある乳幼児に不適切な養育が生じるプロセス 事例研究を通じて	一瀬 早百合(洗足こども短期大学)	社会福祉(0288-3058)51号 Page53-65(2011.03)
20	【重症心身障害児の看護 長期入所者を中心に】 【事例にみるケアの実際】 NICUから重症心身障害児施設への移行	奈須 康子, 丸山 るり子, 春山 康久	小児看護(0386-6289)34巻5号 Page654-660(2011.05)
21	乳児から小学生の子どもをもつ母親の虐待認識についての検討	横山 美江(大阪市立大学 大学院), 岡崎 綾乃, 杉本 昌子, 小田 照美, 塚本 聡子, 水上 健治, 茵 潤	日本公衆衛生雑誌(0546-1766)58巻1号 Page30-39(2011.01)
22	児童虐待と親のメンタルヘルス問題 児童福祉施設への量的調査にみるその実態と支援課題	松宮 透高(川崎医療福祉大学 医療福祉学部医療福祉学科), 井上 信次	厚生指標(0452-6104)57巻10号 Page6-12(2010.09)
23	成人期の発達障害と心身医療 知的に正常な発達障害がある母親への心身医療と発達障害児の養育環境	芳賀 彰子(九州大学 大学院医学研究院心身医学)	心身医学(0385-0307)50巻4号 Page293-302(2010.04)
24	【被虐待児へのケアと支援 看護師が、できる/すべき/知っておくべきこと】 知っておくべき知識 被虐待児へのケアと支援 ふだんのかかわりにおける看護の役割 早期発見から予防的支援へ	浅野 みどり(名古屋大学 医学部保健学科), 古澤 亜矢子	小児看護(0386-6289)32巻5号 Page524-531(2009.05)